

普及活動検討会実施報告書

登米農業改良普及センター

実施月日：令和 7年 1月 21日

実施場所：登米合同庁舎 501 会議室

1 検討内容

No	検討項目
1	完了課題「農地整備を契機とした地域営農体制の構築」について
2	完了課題「地域営農構想の実現に向けた営農体制整備」について
3	完了課題「グリーンな栽培体系の実践による持続可能な稲作経営の実現」について
4	令和7年度普及指導計画の概要について 新規課題「農地整備を契機とした地域営農構想の実現」について 新規課題「環境負荷軽減栽培による水稻乾田直播の栽培方法の検討と普及」について

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	1
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市町村	1	マスコミ	1
農業関係団体	1	民間企業	1

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
完了課題 「農地整備 を契機とし た地域営農 体制の構 築」につい て	3.9	<ul style="list-style-type: none">地域農業の将来を地域の皆で考える事は、とても大事なことである。この話し合いから地域農業継続のための課題を見出し、共同することによって未来を切り開こうとする集落の力が働いて来たと感じる。担い手となって活躍する個人や法人がしっかりと自立経営が出来るための更なる体制整備を支援されよう期待する。令和4年度から始まり、様々な問題を抱えながら地域営農構想の具体化に役割が定まったことは評価できる。園芸作物選定の動きも見られ、今後の作付けに期待したい。基盤整備事業をきっかけに、法人化や高収益作物の栽培、新たな技術の導入を通して話し合いの場づくり、リーダーの育成、リーダーに協力する雰囲気づくりに今後も普及員の活動は不可欠である。生産者（農業従事者・高収入が期待できる）と消費者（登米市民・安心安全で適正な価格の作物を手にする）がWin-Winとなる農業経営が求められている。それには、農地整備を契機とした地域営農体制の構築は重要課題であり、関係機関や集落間でより良い	<ul style="list-style-type: none">古宿地区農地整備事業の促進計画では、地区内の船越集落、古宿集落それぞれに担い手法人を設立し、その法人に農地を集積することとしています。関係機関と連携した支援により、船越集落では、令和4年度に農業法人が設立され、集落の担い手として認知されてきたものの、古宿集落では、プロジェクト課題終期である今年度中の法人設立には至らず、担い手の明確化、設立する法人の形態などの議論を今後も重ねていくことが必要であります。このため、普及センターでは、この課題を次年度の重点活動に位置付け、関係機関と連携しながら古宿集落への支援を継続するとともに、船越集落で始まった高収益作物（加工

		<p>連携が図られ、そのための支援が実践されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船越集落では、成果があり加工用馬鈴薯も継続できている点が評価できる。古宿集落は、法人化を断念したことは残念ではあるが、法人化等を目指す意向を示す若者の更なる支援と指導を検討していければよいと考える。 ・古宿地区の法人立ち上げが当初の2法人から1法人になったことは、少し残念な思いである。同地区には地域営農に意欲ある若者がいるとのことなので、将来の担い手や法人化に向けた支援を、引き続きお願いしたい。 ・古宿地区での法人設立が難しい状況との事であるが、引き続きの検討と実現に向けた支援をお願いしたい。 	<p>用ばれいしょ等)の普及・定着に向けた取組を引き続き支援してまいります。</p>
<p>完了課題 「地域営農構想の実現に向けた営農体制整備」について</p>	<p>3.7</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土地改良区が事務局として担える体制整備の構築が進められている様子を頼もしく思う。高収益作物試作支援については、湿害により苦戦しているようであるが、クレソンやサトイモなど水を利水として活用できる方策も検討してはどうか。先進地視察も含め皆で勉強して地域農業が発展に向かっていくことを感じる。今後も活動支援に期待したい。 ・10年間のロードマップ作成は今後の関係機関との役割がより明確になり、目標が分かりやすく、とても良いことである。高収益作物については、品目選定が課題のようなので、収入に繋がる適した品目を選定していただきたい。 ・ロードマップでは、構成員の年齢や後継者の確保など人やチームに関することも入れると良いと思われる。 ・収益性の高い農業に転換できれば、その担い手の確保も見通せるようになる。それらに課題がある地域に、地域営農体制構築支援、高収益作物試作支援、関係機関連携による担い手支援を着実に実施している。担い手法人の経営ビジョン、ロードマップ作成など、様々な工夫をこらしながらその課題解決に向けたプロジェクトとなっている。 ・法人設立という目標の達成に向け、積極的な支援と指導を願う。 ・農地整備の実施にあたり、地下水位の高いほ場でも作付け可能な高収益作物の選定が必要であると感じた。収益を上げられるよう、指導をお願いしたい。 ・ロードマップ活用による計画や検討事項が洗い出されており、事業が円滑に進められそうである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・米川地区農地整備事業の促進計画では、地区内に担い手法人を設立し、その法人に農地を集積することとしています。 ・法人設立に向けては、ロードマップ案の提示や検討すべき事項の整理、事業目論見書の作成など、対象に寄り添いながら必要な支援を継続的に行うことで、法人の設立時期や法人形態などを明確化できたほか、事業活動の具体的なイメージを固めることができました。 ・普及センターでは、法人設立の仕上げの作業や高収益作物の本作化に向けた支援が求められているため、この課題を次年度の重点活動に位置付け、関係機関と連携しながら支援を継続してまいります。

<p>完了課題 「グリーンな栽培体系の実践による持続可能な稲作経営の実現」について</p>	<p>4.0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境にやさしい栽培技術と省力化に資する栽培技術を併せ持つグリーンな栽培体系は時代のニーズに添った、地域農業の発展に求められる技術である。肥料も機械もすでに実用化され、実証試験を通じ地域に合った確かな普及を目指すための本取組の意義は大きい。 ・肥料の高騰が農業経営に影響を及ぼしている中、グリーンな栽培体系の取組成果は良かった。今後の普及に力を入れるべきと考えるが、専用機械の導入が課題である。 ・プラスチックコーティング肥料による海洋汚染やメタンによる温室効果等、農業が環境に負荷をかけている事を強く認識した結果、環境保全型農業から「グリーンな栽培体系」の取組となっている。設備費が高い等の問題もあるが、地球環境に配慮した米づくりとなり、持続可能な稲作経営の実現にむかっている。 ・新たな栽培方法や栽培技術への取り組みを評価したい。地球温暖化等、農業や地球を取り巻く環境が激変する中、将来を見据えた栽培技術等への挑戦は取り組んでいかなければならない事であると思うので、取組の周知や周りの理解を得る活動も大切と考える。 ・資材等の高騰により農家の負担が大変大きくなっている。本活動を通じて、慣行栽培と遜色無い収量を確保することができ、肥料費の削減に効果があることが実証されたことで、活動が拡大されることに期待する。 ・一般の生産者に技術の浸透が図られるよう、更なる実証の拡大をお願いしたい。 ・実証試験において、慣行栽培と同等の反収が得られることは理解したが、圃場（実証農家）により反収の差が大きいことに驚いた。反収が極端に低い、高い圃場は、なにが要因なのか？知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この課題では、水稻栽培において海洋流出等で問題となるプラスチック被覆肥料の代替として、ペースト肥料の田植同時施肥や堆肥肥料等の施用技術及び減肥の可能性を実証したもので、概ね狙いどおりの結果を得ることができました。 ・県では、持続可能な食料システムの構築に向けて、「環境にやさしい栽培技術」と「省力化に資する先端技術等」を取り入れた「グリーンな栽培体系」の推進を図っているため、引き続き、これらの技術の普及・拡大に向けた取組を進めてまいります。 ・また、技術によっては、専用田植機の導入など、新たな投資が必要になるため、各種補助事業の紹介や、無利子融資等が活用できる「みどり認定」の取得支援等の取組も合わせて進めてまいります。 ・実証ほ場によっては、肥料の不足、病害の発生等により、収量に影響したと考えております。また、収量調査のサンプリングの精度の問題もあると考えており、今後、サンプリングの精度を高められるよう改善してまいります。
---	------------	---	--

令和7年度普及指導計画の概要について（新規課題含む）

- ・普及活動・支援方向とたくさんの課題があり、どれもとても大事な事業ではあるが、10年先を見据えた普及計画であって欲しい。
- ・登米地域の経済を支える活力ある農業の振興と持続可能な農村づくりは喫緊の課題であり、その課題解決に向けた4つの普及指導方針とプロジェクトは、具体的でありその効果を期待できる。
- ・基幹産業の農業が元気であることが登米市の魅力であればよいと思うので、普及センターの令和7年度の重点活動に挙げた4項目には賛同する。
- ・若い担い手に対する理解や支援が足りない。特に現役の方々の話を聞くと暗い話ばかりする方があまりにも多く、やる気のある若者のやる気が削がれてしまうのではないかな？
- ・登米市が県内初のオーガニックビレッジ宣言を行ったことで、普及に向けた県の支援も必要。

<新規課題「農地整備を契機とした地域営農構想の実現」に関して>

- ・計画は、法人化が目的ではなく、法人化の過程で役員を経営の向上やチームでやっていくルールなどが大事である。特に一緒に農作業するルールや役員で負担の差がでて後でもめる原因にならないなど、法人化した後を意識した指導をお願いしたい。

<新規課題「環境負荷低減栽培による水稲乾田直播の栽培方法の検討と普及」に関して>

- ・乾田直播など、人数にするとシェアはまだ低いのではないかな。そう考えると、過去のプロジェクト活動を、もう一度広げること有意義があるように思われる。以前より認知度も高くなっているので、活動の効果も大きくなると思われる。
- ・乾田直播栽培は、稲作農家において育苗施設や田植え時の苗運びも不要となるため、資材費・人件費・体力的な負担も軽減でき、春作業ピーク時の労働時間を大幅に低減されることに期待できる。

- ・普及指導計画の策定にあたり、「みやぎ食と農の県民条例基本計画（R3-R12）」や「登米地域普及指導基本方針（R3-R7）」などの計画を踏まえているほか、新たな担い手の確保・育成、農地の集積・集約化、環境に配慮した農業生産の取組など、登米地域農業の持続的な発展に必要な取組を推進しているところです。
- ・なお、普及指導計画に位置付け、取り組むべき活動については、引き続き普及活動検討会等でご意見を頂けると幸いです。
- ・登米市有機農業推進協議会の委員として、状況に応じて必要な支援を実施してまいります。

- ・法人の設立に向けた支援と合わせ、法人設立後の農業経営の円滑な展開に向けて、農地整備工事の進捗に合わせて法人内や地域内での協力体制が整うよう、専門家の指導もいただきながら、支援を進めてまいります。

- ・今年度「みやぎの環境にやさしい農産物認証・表示制度」に水稲乾田直播栽培の新基準が設定されたことにより、従来よりも減農薬・減化学肥料栽培に取組みやすくなりました。
- ・環境保全米の認証基準にこの新基準の適用を期待する声があることから、過去の水稲直播栽培技術に関するプロジェクト課題の経緯・活動等も踏まえながら、環境負荷低減が

			<p>図られる栽培技術確立に向けて取組を進めてまいります。</p>
<p>その他</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・登米市の農業は大変素晴らしい。それを後世に伝えるためにはどうしたら良いか考えている。機械も大型化し、小中規模農家は手が出ない。農家が減少する1つの原因にもなっていると思われる。市・J A等が協力し合い、リース等を考えていただきたい。 ・九州や四国に生息する緑色のカメムシを我が家の廊下で見た時の驚き、高温障害による農作物の収量減、海水温上昇により近海で取れなくなったサンマや烏賊など、気候変動が私たちの生活に大きな影響を与えていると思われる。気候の変化をどう評価し、作付けする品種をどうするかを検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登米市農業の持続的な発展に向けて、家族経営体や農業法人等への経営の安定化・高度化の取組を支援するとともに、必要な支援策については、関係機関と情報共有を図りながら検討してまいります。 ・農業・園芸総合研究所、古川農業試験場、畜産試験場においては、「気候変動に適応した農業技術の確立と効果的な社会実装」をテーマに、新品種の育成や病虫害管理、栽培管理に関する試験研究を進めております。 ・普及センターでは、これら試験研究の成果がまとめ次第、生産現場への技術普及に努めてまいります。